

木工屋
えーな木育クラブ 会長

小椋 正明さん



朴の木を削って、 ミスプーンを作ろう！

「朴の木は素直で柔らかく、削りやすい。初心者の方が使うにはおすすすめだね。そう話すのは、えーな木育クラブ会長の小椋正明さん。恵那市内の森での森遊びのコーディネートや、ファーストスプーン作り、子ども園での木育の活動などをしていきます。そんな小椋さんに、実際に朴の木を使ってスプーンを作ってもらいました。

まず、ナタを使って、朴の木をスプーンの形に削り落とします。おおよその形ができあがったら、シェービングホース（削り馬）を使って、よりスプーンらしい形となるように削っていきます。最後はナイフと彫刻刀で、形を整えてほぼ完成。ここまでの時間、およそ30分！あつという間に、味のある手作りスプーンができあがりました。

Utilization of Honoki

葉っぱだけじゃない！

こんなことにも使われる 朴の木の活用

朴葉だけでなく、朴の木自体の活用も様々。朴の木の活用をお二方にお聞きしました。



お手製のシェービングホース

プラスチックの削り馬にもなり、環境にも優しい朴の木スプーン。「コツは諦めず」にひたすらやること。慣れると勝手に手が動くようになる」と小椋さん。木工初心者の方も、ぜひチャレンジしてみてください？

様々な道具で手際よく削っていきます

完成!

恵那と縁深い木版画に、 朴の木でチャレンジ

恵那市は、実は版画との縁が深いまち。昭和20年代から学校教育に版画を取り入れたり、中山道広重美術館では「子ども版画コンクール」を開催したりと、子どもから版画に親しむ環境が根付いています。「朴の木は、ベニヤ板が広く流通するようになるまでは版画で多く使われていたんです」と教えてくれたのは、恵那市

在住の版画家、市川彰さん。恵那市美術展版画の部の創設以来、2年連続市展賞を受賞するなど、高い実力が評価されています。市川さんは「朴の木は一般的に使われるシナベニヤよりも硬いので、細かいところも綺麗に線が出ます。浮世絵はある程度硬い素材を使わないと

一度試しに削って刷り具合を確認します

完成!

削れて角が取れてしまうので、朴の木のようにはっきりした素材を使うのはおすすすめですよ。」恵那市産の朴の木で版画にチャレンジしてみましよう。それが新しい恵那の文化になる日が来るかも？

版画家
一般社団法人日本板画院 東海支部長

市川 彰さん